

東京女子医大
佐藤容疑者

手術中にパニック

人工心肺急変時の操作知らず

東京女子医大病院(東京都新宿区)で昨年三月、心臓手術中に平柳明香さん(当時十二歳)が死亡した医療過誤事件で、人工心肺装置の操作を誤ったとして業務上過失致死容疑で逮捕された同病院循環器小児外科助手、佐藤一樹容疑者(38)が、手術中、明香さんの容体が急変した際にパニック状態に陥り、駆けつけた臨床工学技士が代わって処置に当たったことが、警視庁牛込署特捜本部の調べでわかった。同外科では、同装置の操作を専門家の技士ではなく、医師が担当することが慣例化していたという。特捜本部では、十分な技量や知識がなかったとみられる佐藤容疑者に操作を任せていたことも事件の背景にあるとみて捜査している。(関連記事一面)

調べによると、昨年三月、利用した「落差脱血法」を、後、同装置のポンプの回転 出るなど容体が急変した。二日に行われた手術では、採用する予定だったが、佐藤 数を上げたため、血がうまくこの時点で、佐藤容疑者は明香さんの心臓からの脱血 藤容疑者一人の判断で、人 ぐ抜き取れない「脱血不良」原因がわからずパニックに方法について、血液をため 人工心肺装置のポンプを利用 が発生し、明香さんの顔が になってしまった。脱血方法る容器と心臓との高低差を した脱血方法に変更。その 異常に腫れあがり、鼻血が の変重を知らなかった周囲

のスタッフもすぐに対応できず、事態を知って駆けつけた同病院の技士が処置することになったという。

その間、脱血不良の状態は少なくとも十分以上続いたとみられ、緊急時の処置の遅れが、脳障害を合併させて脳循環不全で明香さんを死にさせたとみられる。昨年十月に発表された同病院の調査報告書は、同病院長の別の外科では通常、専任の技士が操作を担当していることに加え、器械操作などの面は装置やシステムを熟知している専門のテクニシャンである技士に担当してもらい、担当医は監視、調節など医学的な側面から監督するシステムではないかとし、循環器小児外科の体制に疑問を示した。さらに、同科関係者からの聴取結果として、「(同科の医師は)一般に人工心肺について技士たちに任せ、操作を技士に任せようとしなかった。技士たちも小児外科に対して必ずしもいい感情を持っていなかった」と指摘している。調べに対し佐藤容疑者は、「事故の責任は手術した側にある」と容疑を否認する供述をしている。

女子医大小児心臓手術事故
佐藤医師人工心肺操作変更
2022年6月29日 読売新聞夕刊